

## <臨床腫瘍科>

### 一般（教育）目標

悪性腫瘍に対する診療を幅広く経験し、臨床研究に取り組むことにより、悪性腫瘍領域の疾患の病態を理解し、がん薬物療法、支持療法、緩和ケアの基本、および、悪性腫瘍患者に対する医師としての姿勢を身につけることを目標とする

当科で研修する際に学ぶべき 5 つの側面（①がん薬物療法、②がん患者の全身管理、③症状緩和、④がん治療のコーディネート、⑤臨床研究）を図に示す



### (具体的) 行動目標

#### (1) 基本姿勢

的確な診察で病態を把握し、患者さんの想いを聞き取り、患者さんの価値観とエビデンスに基づく最善の医療を行う

#### (2) 診察法・検査・手技

内科医としての一般的な技術を身につける

#### (3) 症状・病態への対応

- (ア) 乳癌、消化器癌（大腸癌、胃癌、食道癌、肝臓癌、胆道癌、膵臓癌）、肺癌、泌尿器癌（腎臓癌、膀胱癌、前立腺癌）、婦人科癌（卵巣癌、子宮体癌、子宮頸癌）、胚細胞腫瘍、肉腫、原発不明癌等の悪性腫瘍一般の診療を行う
- (イ) 治療目標、リスク-ベネフィットバランス、エビデンス、および、患者さんの価値観を考慮しながら治療方針を考え、適切な治療（がん薬物療法、副作用マネジメント、全身管理、緩和ケア）を行う
- (ウ) 日々更新される最新のエビデンスをフォローする
- (エ) 日々の診療で生じた問題（クリニカルクエスチョン）に対して、エビデンスに基づき 答えを出す
- (オ) 答えのない重要なクリニカルクエスチョンに対しては、答えを出すための臨床研究を立案する

具体的な研修内容は、ESMO/ASCO の「メディカルオンコロジーにおけるグローバル・コアカリキュラム\*」を参考にする。

\* ESMO/ASCO Recommendation for a Global Curriculum in Medical Oncology Edition 2016.

ESMO Open 2016;1:e000097

#### 学習方略（1）

- (1) 上級医の指導のもとで入院患者の診療を行う。受け持ち患者数は 10～15 人程度とする
- (2) 平日の病棟回診に参加し、症例提示とディスカッションを行う
- (3) 上級医の指導のもと、治療や検査の方針を検討し、自ら計画し実施する
- (4) 上級医の指導のもと、がん薬物療法を実施し、その適切な投与方法、安全対策、副作用対策、効果判定等の知識・技術を身につける
- (5) 患者さん、他のスタッフとのコミュニケーション能力を身につける

#### 学習方略（2）勉強会・カンファレンス・学会など

- (1) 日々の勉強や、定期的に開催される勉強会で、がん医療や生物統計に関する基礎知識を習得する
- (2) クリニカルクエスチョンに答えを出すための文献検索や批判的吟味を通じて EMB を実践する
- (3) 臨床腫瘍科のカンファレンスや、他科との合同カンファレンス、キャンサーサーボードに参加し、症例提示とディスカッションを行う
- (4) 臨床研究に主体的に参加する（企画立案、プロトコール作成、実施）
- (5) 会発表や論文執筆を積極的に行う

週間予定 (C : カンファレンス)

(例) ※隨時、病棟業務、他科コンサルテーションなど

	月	火	水	木	金
午前	ケモ室 C		病棟 C 放射線科 C		部長回診
午後 1	臨床腫瘍科 C				大腸癌 C
午後 2	乳癌 C		泌尿器癌 C	上部消化管 C	婦人科 C (月 1-2 回) 骨転移 C (第 1 金) がん遺伝子パネル検査 エキスパートパネル

#### EV 評価

PG-EPOC による評価方法 (研修医 ⇄ 指導医)

※研修医は、各分野の研修終了後、速やかにその分野の自己評価を行い、PG-EPOC 評価システムに入力すること